

令和3年度スポーツ産業の成長促進事業

「中央競技団体の経営力強化推進事業(戦略的普及・マーケティングの実施)」

日本のスポーツ界及びNFの未来を創造する JTA戦略的普及・マーケティング「NEXT100」推進事業

令和3年度委託事業成果報告書

令和4年4月 公益財団法人日本テニス協会 本報告書は、スポーツ庁の令和3年度スポーツ産業の成長促進事業「中央競技団体の経営力強化推進事業(戦略的普及・マーケティングの実施)」の委託事業として、公益財団法人日本テニス協会が実施した令和3年度スポーツ産業の成長促進事業「中央競技団体の経営力強化推進事業(戦略的普及・マーケティングの実施)」の成果を取りまとめたものです。 従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

<u>目次</u>



- 1. 事業概要
- 2. 令和3年度における実施計画及び実績
- 3. 令和3年度における主な事業成果
 - A:「テニピン」 普及推進活動
 - B:「Play & Stay」普及推進活動
 - C:「テニピン」及び「Play & Stay」起点の収益化活動
- 4. 令和3年度における事業課題及び改善策

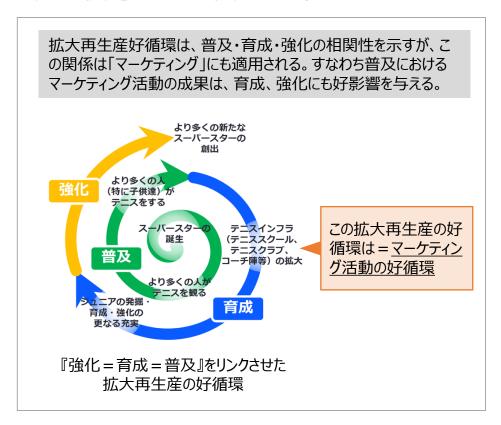


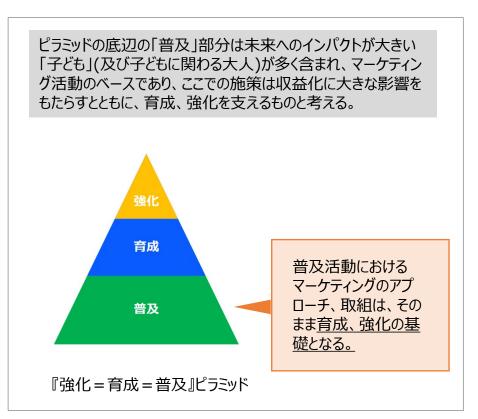
1. 事業概要



『日本のテニス』の中長期戦略プランの中にも示す通り、JTAでは『普及→育成→強化』をリンクさせた拡大再生産の<u>好循環</u>を作り出す取組の真っ只中にある。*1

そして、中長期普及・マーケティング戦略においても、この戦略の軸である『普及→育成→強化』をリンクさせた拡大再生産の<u>好循環</u>と、『普及 →育成→強化』のピラミッドの強化、という考え方をベースにする。





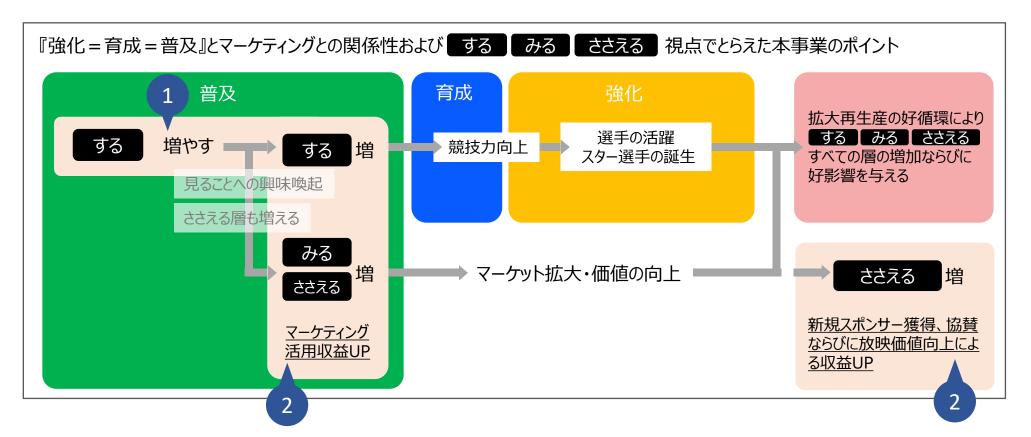
*1. 小学校体育授業用として開発された「テニピン」の普及活動により、これまでサッカー、野球、バスケに集中しがちだった運動能力が高い子どもがテニピンを入り口として、テニスを始める例が増えている。このトレンドは、明らかに中長期的に育成・強化にも好影響をもたらすことが期待できる。実際、今年度、このテニピン経験者からのプロ第一号が誕生するなど、着実に成果を上げている。



①「する」人口の獲得からのアプローチ

裾野部分 = 最もパイが大きくなる可能性があり、かつ、将来を担う若年層へのアプローチにより、一義的には<u>競技人口増を</u>狙う。さらにこの取組によって増えるテニスとの接点を利用して、<u>愛好者 = みる層およびプレイヤーの両親、祖父母などのささえる層</u>にもしっかりとアプローチすることで、マーケット全体の拡大を目指す。

② マーケティング活用視点からの普及 普及にかかわるすべての人々をターゲットとして<u>収益を上げる仕組みの設計と実行</u>ならびにその<u>ベースの構築</u>を行う。

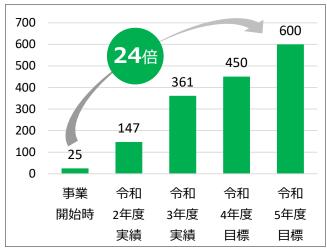


事業目標

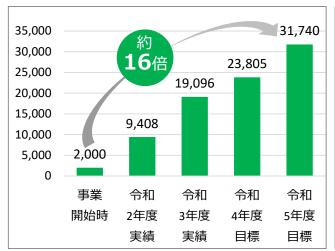


小学校で「テニピン」の授業を経験した児童が、テニススクール等でテニスを継続する確率(移行率)が約30%という高さであること、同様に、技術的な難易度を下げ、また最初からラリーやゲームを重視する「Play & Stay」が、やはり子どもたちが楽しみながらテニスを継続する機会の提供につながっていること、本事業はこの2つの取組を加速させ、テニス人口を圧倒的に増やすとともに、それをベースとした収益増につなげるモデルを確立することを目指す。 ※コロナ禍での事業推進を考慮し、令和4年度以降の目標数値を一部修正

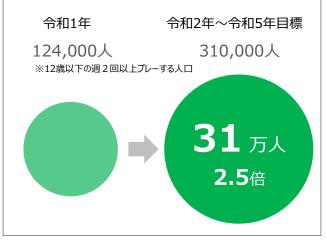
■テニピン導入校累積数



■ テニピン経験児童累積数



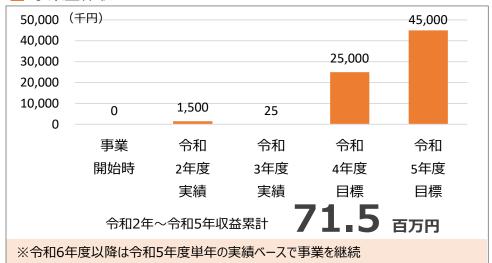
■ テニス競技人口



■ Play & Stay選手登録料収入



■ 事業全体収益





令和2年度は下記C、Dをひとつの事業として運用していたが、webサイト及びデータベース構築・運用は、事業全体に連動するものであり、独立した体制で注力し、それを有機的にその他活動へ連携させることが効果的であると判断し、令和3年度は4つの事業で活動を加速させた。

A: 「テニピン」普及推進活動 / B: 「Play & Stay」普及推進活動

C: ABにおけるwebサイト及びBにおけるデータベース構築・運用

D:ABCを活用した収益化活動

=する人口を増やす取組

= 普及及びマーケティングの活動基盤を強化する取組

=収益を増やす取組

A:「テニピン」普及推進活動

【実施方針】

小学校への認知度向上、学校での用具調達、指導方法の伝達等の環境整備が急務。「コロナ禍でも取り組みやすい体育授業」として展開したwebセミナーは多くの方に参加頂き、キャンペーンについても、想定以上の応募があったため、令和3年度はそれらをブラッシュアップすると共に、リアルでの普及活動も可能な範囲で行う。

一方、全国的な普及には、中央団体からの発信だけでは限界も見え、各地でアンバサダーを担える指導者を育成するべく、量だけではなく質にも重きをおいた施策も展開する。

【実施計画】

- 1.全国での研修会実施
- 2.用具寄贈キャンペーン
- 3.ガイドブック配布

B:「Play & Stay」普及推進活動

【実施方針】

公認カラーボール大会創設及び大会数拡大に連携が不可欠な他団体及び事業者へ実施したとアリング結果から、全国標準の大会管理・運営規定の制定、及びP&Sのレッスン導入とカラーボールを用いた試合がもたらす利点について更なる理解浸透を進める。令和3年度は、選手・試合結果の登録システム構築により得られるデータベースを活用した情報伝達の仕組み作りに注力する。

大会については、コロナ禍での開催は難しいと判断し、令和3年度以降にスケジュールを改める。

【実施計画】

- 1. JTA公認カラーボール大会創設
- 2. JTA公認カラーボール大会参加継続促進 制度の確立・運用
- 3.大会主催者(民間事業者及び地方テニス協会)との実務連携及び情報共有

D: ABCを活用した収益化活動

【実施方針】

普及活動で得られるものをデータベース化し、マーケティング活動に活かすことで収益化を図ることを目指す。具体的には、選手登録料収入、スポンサー収入の確保等により収益の拡大を見込む。

コロナウイルス感染症拡大による大会中止と経済 状況の悪化から状況は厳しく、大会依存からの脱 却と共に、本プロジェクトは未来を担う子ども達への サポートであり、中長期的なメリットがあることをスポ ンサーへ理解頂く活動も行う。また、テニピンの用具 販売など、スポンサー以外の新たな収益源について も、同じくデータベースを活用し、創出を図る。

【実施計画】

- 1.「テニピン」における収益化企画
- 2.「Play & Stay」における収益化企画
- 3.データマーケティング活動 (Play & Stay関連)

C: ABにおけるwebサイト及びBにおけるデータベース構築・運用

【実施方針】

本事業における情報及びデータの集約、それを活用した収益化の基盤構築を目指す。令和3年度は、webサイトについては本格稼働、データベース及び選手登録システムについてはテスト稼働を行う。

【実施計画】

1.「テニピン」及び「Play & Stay」専用サイトの運用・発信 2.「Play & Stay」データベースの構築・運用



2. 令和3年度における実施計画及び実績



ABCD共に、コロナ禍の影響を受けにくい項目については、計画通り進行し、実績を上げることができた。Bの大会実施、それに紐づくDの収益化活動については、コロナ禍の影響を受け当初の目標は達成できなかったものの、活動内容を見直し、来期に向けての充分な下準備を行った。

A: 「テニピン」普及推進活動 / B: 「Play & Stay」普及推進活動

C: ABにおけるwebサイト及びBにおけるデータベース構築・運用

D:ABCを活用した収益化活動

=する人口を増やす取組

= 普及及びマーケティングの活動基盤を強化する取組

=収益を増やす取組

A:「テニピン」普及推進活動

【実施計画及び実績】

1.全国での研修会実施

 \Rightarrow \bigcirc

対面、オンライン共に実施し、研修会への参加人数は703名と目標を大きく上回った。

2.用具寄贈キャンペーン

 \Rightarrow \bigcirc

189校と多くの小学校から申し込みがあった。これにより、全国47都道府県中、38都道府県においてJTAより用具提供済。

3.ガイドブック配布

 \Rightarrow \bigcirc

第2版として、「コロナ禍でもできるテニピン遊び」 のページを作成。Youtube動画ともリンクさせ、 再生回数も好調。教育新聞のツールを使い、 19,200校全ての小学校にガイドブックを発送。

B:「Play & Stay」普及推進活動

【実施計画及び実績】

1.JTA公認カラーボール大会創設

 $\Rightarrow \land$

JTA公認カラーボール大会として「テニススターチャレンジ」を創設。今期はテスト大会を47大会予定していたが、コロナ禍の影響で13大会の開催となった。

2. JTA公認カラーボール大会参加継続促進 制度の確立・運用

 \Rightarrow \bigcirc

事業者登録、選手登録可能なポータルサイト「スターシステム」を構築。来期より本格運用となる。

3.大会主催者(民間事業者及び地方テニス協会)との実務連携及び情報共有

 \Rightarrow \bigcirc

他団体・民間団体の方々と交流会を実施。

D: ABCを活用した収益化活動

【実施計画及び実績】

1.「テニピン」における収益化企画

 $\Rightarrow \triangle$

ハンドラケット販売は予算の関係で告知ができず伸び悩み。コスト競争もあり、販売の見直しが必要。 スポンサー協賛収入は、コロナ禍の影響により提案 活動が行えず、来期より実績化を目指す。

2.「Play & Stay」における収益化企画

 \Rightarrow \triangle

スポンサー協賛収入は、コロナ禍の影響あり提案活動行えず、来期より実績化を目指す。

3.データマーケティング活動 (Play & Stay関連) ⇒ ○

来期からの収益化に向け活動内容を構想。

C: ABにおけるwebサイト及びBにおけるデータベース構築・運用

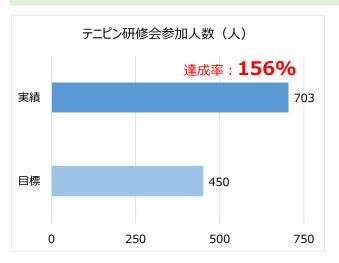
【実施計画及び実績】

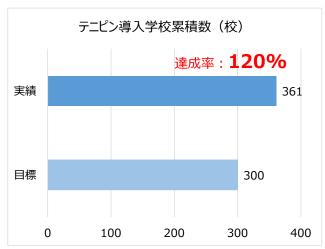
- 1.「テニピン」及び「Play & Stay」専用サイトの運用・発信 ⇒ 昨年度設計した専用サイトを計画通り4月に公開。積極的な情報発信を行った。
- 2.「Play & Stay」データベースの構築・運用 ⇒ データベースの根幹となる大会・選手登録の仕様を検討、構築。令和4年度からの収益化準備を整えた。



本事業における収益化活動の基盤となるA:「テニピン」普及推進活動においては目標を大きく上回る結果となった。B:「Play & Stay」普及推進活動においては、コロナ禍の影響で多くの大会が中止となり、未達となった。D: ABCを活用した収益化活動については、コロナ禍による大会中止及びデータベース構築の遅れから、スポンサー協賛の獲得ができずセールスシートによる種まきに終わり、課題を残す結果となった。

A: 「テニピン」普及推進活動

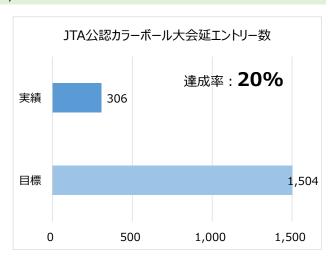


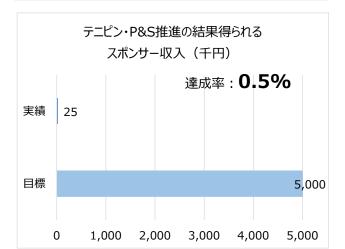




B:「Play & Stay」普及推進活動

JTA公認カラーボール大会数 達成率: **28%** 目標 47







Aについては概ねスケジュール通りに進行。Cは大会主催の事業者等にも協力を得る必要があり調整に時間を要したものの、今年度中にテストまで完了。B、Dについては、データベース構築の遅れやコロナ禍の状況を鑑み、内容とスケジュールを見直しながら可能な範囲での活動となった。

0, 62	0,0	4月	5月	6月	7月	8月	ヘルして 東亜 0 7 、 9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
A:「テニピン」普 及推進活動	実施計画	研修会準備/ガイド ブック制作	研修会実施/ガイド ブック配布	研修会実施/ガイド ブック配布	研修会実施/ガイド ブック配布/キャンペー ン準備	研修会実施/ガイド ブック配布/キャンペー ン募集	研修会実施/ガイド ブック配布/キャンペー ン募集	研修会実施/ガイド ブック配布/キャンペー ン募集	研修会実施/ガイド ブック配布/キャンペー ン抽選	研修会実施/ガイド ブック配布/用具手 配・送付	研修会実施/ガイド ブック配布	研修会実施/ガイド ブック配布/次年度に 向けた計画の更新・ 見直し	研修会実施/ガイド ブック配布/事業収支 決算及び報告書まと め
	実施実績	ガイドブック制作	ガイドブック制作		ガイドブック全国発送/ オンラインセミナー/キャ ンペーン準備	研修会実施/キャン ペーン募集	研修会実施/キャン ペーン募集	研修会実施/キャンペーン募集	研修会実施/キャンペーン抽選/次年度計画立案	研修会実/UNIQLO イベントによる錦織選 手の協力/用具発送	研修会実施/NHKテニスパークによる松岡 修造氏の協力	研修会実施/普及育 成強化連携映像制 作(完成)/次年度 に向けた計画の更新・ 見直U	研修会実施/第一生 命イベントでの授業実 施/事業収支決算及 び報告書まとめ
B:「Play & Stay」普及推進 活動	実施計画	テスト大会公認準備/ 大会主催との実務連 携及び情報共有	大会主催との実務連 携及び情報共有/大 会参加継続促進制 度設計	大会主催との実務連 携及び情報共有/大 会参加継続促進制 度設計	大会主催との実務連 携及び情報共有/大 会参加継続促進制 度設計	テスト大会公認申請受 付開始(大会60日 前)/承認通知、選手エ ントリー開始(大会45 日前)/大会参加継続 促進制度設計	テスト大会準備/大会 参加継続促進制度 設計	テスト大会実施/大会 参加継続促進制度 設計	テスト大会実施/ 大会参加継続促進 制度構築完了	テスト大会実施/大会 参加継続促進制度 運用準備	テスト大会実施/公認 大会申請受付開始/ 大会審査/大会参加 継続促進制度運用 準備	テスト大会実施/ 公認大会受付/次年 度に向けた計画の更 新・見直し	事業収支決算及び報 告書まとめ
	実施実績	JTA公認基準につい ての各方面へのリサー チ/進捗状況の共有	カラーボール大会周知に向けた関係者への情報共有/システム連携に向けた準備	47都道府県における カラーボール大会実施 回数の把握/民間団 体への協力要請		WEBミーティング結果	コロナ禍による限定的 なテスト大会実施	下半期大会の把握/ テスト大会実施準備 及びシステム内容検 討	テスト大会申請開始/ 来年度の他団体との 連携に向けたミーティ ング実施	テスト大会実施(8 大会)	データベースシステム 確認(C事業と連 携)、登録促進方法 の検討	捞)、豆球促進力法	デスト大会実施 (5大 会) /来期大会及びシス デム (「デニス☆スターチャ レンジ」「スターシステ ム」) についての周知/事 業収支決算及び報告書 まとめ
C: ABにおける webサイト及びB におけるデータ ベース構築・運用	実施計画						専用サイト運用・更新 /データベーステスト運 用					専用サイト運用・更新 /データベース本格運 用準備/次年度に向 けた計画の更新・見 直し	データベースシステム 構築完了/事業収支 決算及び報告書まと め
	実施実績	専用サイト運用開始/ データベースシステム 設計					専用サイト運用・更新 /データベースシステム 設計					/データベースシステム	専用サイト運用・更新 /データベースシステム テスト/事業収支決算 及び報告書まとめ
D: ABCを活用 Uた収益化活動	実施計画	収益化企画立案/ス ボンサーターゲット設 定	収益化企画立案/ス ボンサーターゲット設 定	収益化企画詳細設計/スポンサー向け提案	収益化企画詳細設計/スポンサー向け提案	収益化企画実施/スポンサー向け提案	収益化企画実施/ス ポンサー決定(テニピ ン関連)	収益化活動実施/ データマーケティング活 動構想	収益化活動実施/ス ポンサー決定(Play & Stay関連)/デー タマーケティング活動 構想	収益化活動実施/ データマーケティング活 動構想	収益化活動実施/ データマーケティング活 動構想	収益化活動実施/ データマーケティング活動テスト運用/次年度 に向けた計画の更新・ 見直し	事業収支決算及び報 告書まとめ
	実施実績	企画案の抽出と選定 (クラウドファンディン グ、ハンドラケット販 売)	クラウドファンディング事 業を中心にリサーチ開 始/ハンドラケット販売 告知	クラウドファンディング (Readyfor)ヒアリ ング	クラウドファンディング (テニス365)ヒアリ ング	ラウドファンディング (ふるさと納税を活用 した)を検討	クラウドファンディング (Campfire)リサー チ	寄付型クラウドファン ディング検討/スポン サー企業向けセールス 体制の検討	今年度中には対応が 困難なことが判明しク ラウドファンディングは 次年度に延期/ハンド ラケット販売	ターゲット企業先の選定/セールスシートの叩き作成/ハンドラケット販売	ターゲット企業へのテスト提案(企業の次年度予算確保)	ターゲット企業へのテスト提案(企業の次年度予算確保)/次年度に向けた計画の更新・見直し	セールスクロージング フォロー/事業収支決 算及び報告書まとめ



3. 令和3年度における主な事業成果



本事業における収益化活動の基盤となるA:「テニピン」普及推進活動、B:「Play & Stay」普及推進活動においては、Aは目標値を上回る成果をあげ、Bはコロナ禍の影響により大会数等の数値目標達成に影響が出たものの、概ね計画通りに遂行することができた。

収益化活動のプラットフォームとなるC:ABにおけるwebサイト及びBにおけるデータベース構築・運用については、今期の注力項目であったデータベースシステム設計が無事に完了し、テストも終え、来期より本格的な運用に入る準備が整ったことは大きな成果である。

D:ABCを活用した収益化活動については、コロナ禍の影響で大会数が以前の水準に戻らず、また、データベース構築の時期がずれたことで、スポンサー協賛収入の獲得が難しいと想定し、テニピンハンドラケット販売を代替案の柱としていたが、予算の都合上、広く告知が行えず、金額目標は未達となった。一方、スポンサー獲得に向けては、セールスシートを作成の上、モデル企業へテスト提案を行い、来期の下準備を行った。

これまでの取り組みにより、「テニピン」「Play & Stay」の認知は広がり、またJTAが更に推進していくための基盤(用具、大会フォーマット、webサイト等)は整った。また、これらを収益化するためのデータベースシステムの構築も完了し、来年度より本格的に運用開始となる。これを効果的に稼働させるためには、大会やイベントの実施、それをサポート頂くスポンサー企業が必要であり、依然コロナ禍の影響が懸念される中ではあるが、JTA100周年という契機の年でもあるため果敢に目標達成に向けチャレンジしていきたい。そのためにも、来期からは、組織に新設したマーケティング部門バックアップのもと、A~D各事業の連携を強化することで歯車を回していくことを方針に掲げ、普及推進活動と収益化の両立実現を目指す。具体的には、この方針に基づきA~D事業の枠組みを見直す方針。

次ページより、令和3年度における本活動の主な成果をトピックスとして報告する。



① 研修会実施及びガイドブック配布

テニピンオンラインセミナーを計3回実施。テニピン関連講習会は、計700名以上にご参加頂き、現場教員への認知及び、実践の可能性を理解してもらう契機となった。また、ガイドブックについては、19,200校の小学校全てに無償提供し、大きな成果となった。

▼テニピンオンラインセミナー告知



▼ガイドブック配布告知





② リアルイベント開催によるアプローチ

リアルイベントで「テニピン」を体験できる場を提供。UNIQLOイベントでは、錦織選手と連携し、子ども達にテニピンを通してテニスの楽しさを紹介。松岡修造氏と実施しているNHKテニスパークの小学校教員テニピン講習会は、昨年に引き続き継続開催することができた。

▼UNIQLOイベント

...II SoftBank 🛜 0:5

Tennis News

すべてのプログラムが終了したあと、錦織は子どもたちに「ユニクロさんとこうやってコラボレーションして服の大切さだったりテニスの楽しさを今日感じてもらえたと思うので、まだまだ友だちと遊べなかったりつらい時期があると思うけど、もうちょっとしたら良くなるはずなので、みんなで頑張りましょう」と語りかけた。

錦織はBNPパリバ・オープンで敗れて以来、負傷の影響で公式戦に出場できず先月2日に今季終了を宣言。 今後は1月から始まる2022年シーズンに向け準備 を進めることになる。



テニピンを体験

Amazon Prime Video 『ドキュメンタル10』独占配信中





▼NHKテニスパーク





③ 用具寄贈キャンペーンの実施及びハンドラケット・ボールの販売開始

用具無償提供キャンペーンは189校の申し込みがあり、現在、全国38都道府県においてJTAより用具提供ができている状況。ヨネックスのテニピンハンドラケット・ボールの販売も開始し。価格体制の見直しが必要ではあるものの、用具が整備されたことは大きな成果となった。

▼用具無償提供キャンペーン告知



▼ハンドラケット・ボール









① テニススターチャレンジの立ち上げ

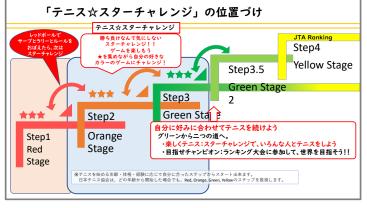
JTA公認カラーボール大会として、「テニススターチャレンジ」を創設。3月のカンファレンスにて各団体へ正式アナウンスした。コロナ禍の影響もあったが、テスト大会は13大会開催できた。来期は状況を見ながら正式に大会を開催し、普及推進活動を更に加速させる。

▼告知チラシ



▼案内資料





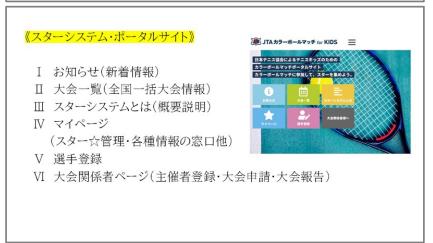


② スターシステムの整備

事業者/主催者、選手/保護者がそれぞれ事業者登録、選手登録可能なポータルサイトを立ち上げ。制度の基本的なレギュレーションは確立が完了。低年齢の子供たちへ段階的移行を促すためのシステムとして利用できるよう、更に魅力的な登録メリットの創出を目指す。

▼案内資料











① 専用サイトの運用開始

昨年度設計した専用サイトを計画通り4月に公開した。キャンペーンやセミナー、オンデマンド配信の告知はもちろん、メディアに取り上げられた際の様子なども発信。また、JTAのwebサイトから各サイトへの誘導を促すべく、バナーデザインを変更し、ユーザビリティを高めた。

▼「テニピン」専用サイト



▼「Play & Stay」専用サイト



▼JTA webサイトバナー





① セールスシートの作成

コロナ禍の影響による大会数減、及びデータベース構築の時期のずれにより、スポンサー協賛収入の獲得は行わなかったが、来期を見据 えセールスシートの作成を行い、モデル企業へのテスト提案を行った。来期はこれを活用し、積極的にセールスを行い収益化を目指す。

▼セールスシート







4. 令和4年度に向けての事業課題及び展望



今年度までに収益化に向けた基盤が整備できたため、令和4年度からは収益化に向けた活動を加速させる。組織に新設したマーケティング部門バックアップのもと、A~D各事業の連携を強化することで歯車を回していくことを方針に掲げ、普及推進活動と収益化の両立実現を目指す。

A: 「テニピン」 普及推進活動 / B: 「Play & Stay」 普及推進活動

C: ABにおけるwebサイト及びBにおけるデータベース構築・運用

D:ABCを活用した収益化活動

= する人口を増やす取組

= 普及及びマーケティングの活動基盤を強化する取組

=収益を増やす取組

A:「テニピン」普及推進活動

【課題及び展望】

1.全国での研修会実施

引き続き感染対策を講じながら、リアル講習会の実施を目指す。更に普及活動を加速させるため、条件をクリアした実践者には、アンバサダー認定を行い、地域での講習会をはじめ、普及活動に尽力していただくシステムを構築していく。

2.用具寄贈キャンペーン

今年度は予算の関係により提供数を制限したが、来期は50校の提供を目指す。47全都道府県の配布を完了させ、その提供校にモデルとなり推進に協力頂ける図式を実現する。

3.ガイドブック配布

授業づくりに関する有益な情報を現場に届けるよう、必要に応じてブラッシュアップし、HPからのPDFダウンロードも促す。

B:「Play & Stay」普及推進活動

【課題及び展望】

1.JTA公認カラーボール大会創設 来年度に向け、47都道府県へ大会開催(3大会/各都道府県)を要請済み。他団体・民間団体の大会主催者にもご協力して頂けるよう打診とフォローを進める。

2. JTA公認カラーボール大会参加継続促進 制度の確立・運用

登録制度の基本的なレギュレーションは確立。低年齢の子供たちへ段階的移行を促すため、更に魅力的な登録メリットの創出を目指す。

3.大会主催者(民間事業者及び地方テニス協会)との実務連携及び情報共有「テニススターチャレンジ」の正式リリースを来年度6月に予定。既存大会とのすり合わせにご協力頂けるよう、子ども達への価値を多方面に伝えていく。

D: ABCを活用した収益化活動

【課題及び展望】

1.「テニピン」における収益化企画 ハンドラケット販売については、競合環境を鑑み、 中止も含め販売の見直しが必要。スポンサー協賛 については、今年度定めた想定ターゲットに積極的 なアプローチをかけ、収益化を目指す。

2.「Play & Stay」における収益化企画 来期よりJTA公認カラーボール大会である「テニスス ターチャレンジ」が正式に開催予定であり、スポン サー協賛については、今年度定めた想定ターゲット に積極的なアプローチをかけ、収益化を目指す。

3.データマーケティング活動(Play & Stay関連) 協賛企業が狙いたいターゲットと、データベースに蓄積された選手情報をマッチングさせ、効率的アクティベーション活動、情報発信活動を実施していく。また、大会チケット、関連グッズ等の販売促進も行う。

C: ABにおけるwebサイト及びBにおけるデータベース構築・運用

C事業の構築フェーズは完了したため、令和4年度は他事業と統合し、新たな枠組みでの活動を検討

【課題及び展望】

- 1.「テニピン」及び「Play & Stay」専用サイトの運用・発信 : アクセス分析を実施してPDCAを回し、サイトへの集客、ページビュー向上に向けた更新を目指す。
- 2.「Play & Stay」データベースの構築・運用 : 来年度よりいよいよ収益化フェーズとなるため、大会、選手登録を促すマーケティング手法を検討し、進めていく。